

日本教育大学協会 全国美術部門 会報 No.56

令和4年度（2022）年6月30日発行

編集・発行 日本教育大学全国美術部門
代表 表 新聞仲也（滋賀大学）
編集担当 吉川暢子（香川大学）・高林未央（総務局事務）
広報室 E-mail: daibibumon@uaesj.com（総務局専用）
事務支局 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入る西大路町
146番地 中西印刷株式会社 学会部内
TEL: 075-415-3661/FAX: 075-415-3662
E-mail: uaesj@nacos.com

全国美術部門協議会の活性化を

全国美術部門代表 新聞 仲也（滋賀大学）



全国美術部門代表に就任した滋賀大学新聞仲也です。よろしく申し上げます。冒頭から恐縮ですが、毎年、新規会員向けに案内した部門代表のお知らせを以下に再掲することで、挨拶に代えさせていただきます。

「日本教育大学協会は、全国の国立大学法人の教員養成系大学・学部が機関加盟して組織されている団体で、相互協力や情報交換によって教員養成の質的向上と教育全般に関する学術研究の進展を図り、我が国の教育振興に永く寄与してきています。同協会には、教科内容ごとや附属学校種別など、様々な研究部門を設けていますが、『全国美術部門』は、全国の教員養成系大学・学部の美術科全教員によって組織され、最も活発な研究協議を続けている部門です。毎年1回の全国協議会開催のほか、全国9地区の地区協議会もそれぞれに開催されており、美術科教員共通の問題の研究協議などの貴重な場として、多くの参加者を見えています。また、『全国美術部門・会報』を年1回発行しているほか、会員名簿も編集しており、277名の会員（2022年4月現在）相互の情報交換などに活用されています」

以上のような趣旨のもと「全国美術部門」協議会が開催されており、この協議会の場での研究発表会が発展するかたちで創設されたのが「大学美術教育学会」です。今日まで「全国美術部門」と「大学美術教育学会」が共存関係、表裏一体として歴史を重

ねてきました。前者において国立大学法人教員養成大学・学部にも所属する美術系教員は機関加盟となり、本人の意志にかかわらず自動的に部門会員となりますが、後者は、個人の意志によって加入する学会です。いわば閉じられた部門組織と開かれた学会という矛盾した形態のため理解されず、「部門に加入したくない」という教員の申し出もあり、説明に苦慮したこともありました。

さて、全国美術部門の基幹組織は、Vブロック9つの地区会です。あらためて前会報55号に掲載された「令和2年度地区会報告」を読み返すと国立教員養成大学・学部の実態がたいへんよくわかる報告内容になっています。それぞれの大学・学部の大学事情だけでなく、都道府県に特有の教育事情や課題、教員採用実態が読みとれます。本来であれば、地区全国委員の先生方から、各地区会で出た話題や課題を発表して頂き、情報交換しながら、課題解決に向かう知恵を出し合う場が協議会であるはずですが、かつてはその協議によって出された要望などを教育大学協会や文部科学省に提言要求する組織であったことをあらためて確認した次第です。

これら全国美術部門の協議会を活性化するために、国立大学の本来の役目を再確認しつつ、新たな協議会企画を試みたいと考えています。また、部門・学会も含めた運営を支える総務局の若返りや事務引継も目下の課題となっています。

令和3(2021)年度 部門 役員・各種委員会委員一覧

■代表 八重樫良二* (北海道教育大学)

■副代表 新関伸也* (滋賀大学)
佐藤賢司* (大阪教育大学)

■顧問 佐藤哲夫* (新潟大学)

■総務局委員

総務局長 芳賀正之* (静岡大学)
副総務局長 村田 透* (滋賀大学)
松尾大介* (上越教育大学)

総務局員 前芝武史 (兵庫教育大学)
福井一真 (愛媛大学)
吉川暢子 (香川大学)
藤井康子 (大分大学)
手塚千尋 (明治学院大学)

総務局事務 高林未央

■大会運営委員

小林俊介 (山形大学)
幸 秀樹 (宮崎大学)

■監 事 新野貴則 (山梨大学)
原口健一 (横浜国立大学)

■地区全国委員

I〔北海道〕

福江良純 (北海道教育大学釧路校)
佐々木 けいし (北海道教育大学岩見沢校)

〔東北〕

平野英史 (岩手大学)
虎尾 裕 (宮城教育大学)

II〔関東〕

神野真吾 (千葉大学)
向野康江 (茨城大学)

III〔北 陸〕

松尾大介 (上越教育大学)
岡田匡史 (信州大学)

〔東 海〕

関 俊一 (三重大学)
杉林英彦 (愛知教育大学)

IV〔近 畿〕

藤田昌宏 (滋賀大学)
永沼理善 (和歌山大学)

〔四 国〕

吉川暢子 (香川大学)
福井一真 (愛媛大学)

V〔中 国〕

山本和史 (岡山大学)
藤田英樹 (島根大学)

〔九 州〕

宮田洋平 (福岡教育大学)
栗山裕至 (佐賀大学)

■学校美術教育支援委員会

(兼 大学造形教育連絡協議会)

(兼 全国造形教育連盟大学部会)

委員長 西村德行 (東京学芸大学)
副委員長 笠原広一 (東京学芸大学)
委員 花輪大輔 (北海道教育大学)
岡田匡史 (信州大学)
大島賢一 (信州大学)

*印：運営委員

令和3(2021)年度 地区会報告

【北海道地区会】

第1回 日本教育大学全国美術部門 北海道地区総会 議事録

今年度の地区総会は、コロナ禍の影響を考慮して書面会議として開催した。

日時

令和3年9月1日
～9月7日

参加者

札幌校：花輪、牧野、李
旭川校：岩永、大石、南部
八重樫
釧路校：佐々木、富田、福
江
函館校：橋本
岩見沢：阿部、伊藤、大西
倉重、坂巻、佐々
木、末次、羽子田、
船岳、前田、三浦、
三橋、山内、竹田
(敬称略)

協議事項

1. 令和5年度以降の地区全国委員・地区全国理事について

下の表の通り、令和5～6年度の地区全国委員・地区全国理事について、伊藤先生(岩見沢校)、が担当することが提案され了承された。

年度	地区全国委員・地区全国理事
R 2	竹田(岩見沢) 福江(釧路)
R 3	佐々木(岩見沢) 福江(釧路)
R 4	佐々木(岩見沢) 李(札幌)
R 5	伊藤(岩見沢) 李(札幌)
R 6	伊藤(岩見沢)

報告

理事会から連絡があった以下の事項について周知された。

・登録メールアドレス確認のお願い

諸案内をメールにて送っているが、届かないケースがあるため、会員情報のメールアドレスを確認いただき、変更がある場合にはメールアドレスの更新をお願いしたい。

変更は、それぞれのホームページから行うことができる。

その他

・令和4年度の学会開催予定について

来年度の大会は、九州ブロック宮崎大学で開催の予定である。なお、開催の形態(オンラインまたは対面)については未定である旨が伝えられた。

・各校から

進路・就職活動の様子、コロナの感染拡大防止対策、その他についての情報交換が資料に基づいてなされた。

作成者：北海道教育大学釧路校 福江良純

【東北地区会】

日時

令和3年6月19日(土)
9時～12時

場所

オンライン会議
(zoom, 担当校・弘前大学)

参加者 全10名

弘前大学：佐藤光輝、塚本
悦雄、富田晃
秋田大学：長瀬達也
岩手大学：平野英史
宮城教育大学：虎尾裕
山形大学：小林俊介、降旗
孝、土井敬真
福島大学：新井浩、渡邊晃
一

協議事項

1. 第60回大学美術教育学会「山形大会」の開催

山形大学の小林先生から今年度の学会運営に関して説明があった。基本的に対面での開催は行わず、前日の諸会議・シンポジウム・研究発表などはオンライン(zoom, YouTubeなど)開催となる。そのため、東北地区会から司会者を出す予定となっていた分科会の開催もなく、参加費の徴収も行わない。

2. 教員人事

蝦名敦子(弘前大学)、石川善朗(弘前大学)、浅野治志(宮城教育大学)が昨年度で退職した。新任者は各大学でいなかった。

報告事項

1. 東北地区全国委員の選出、新規入退会の取りまとめ

2021年度および2022年度の東北地区全国委員は虎尾裕(宮城教育大学)が選出され、来年度選出の2022年度および2023年度の全国委員は福島大学からの選出となることが確認された。

その他

1. 各大学の学部・大学院の入試状況および卒業生・修了生の進路情報

各大学の学部・大学院における入学志願者の状況や入試の動向(地域枠など)などが情報共有されて今後の展望などが話された。また、各大学における教員採用試験への取り組みや採用数などの就職動向に関する意見交換が行われた。教職大学院については、定員充足の問題と現職教員中心の現状についての話題が出た。

2. 教員採用試験におけるインセンティブの設定

現行の制度下では国語・数学・社会・理科・英語中心のインセンティブが多くなっており、技能教科は補助的な位置にあるという意見が出され、この問題が教員養成課程構成上の問題点になっているということが話された。

3. 地域との連携について

美術館における鑑賞教育や展示方法の学習など、地域との連携に基づいた実践について各大学から事例が発表された。

4. 小学校教員養成課程に所属する学生について

美術科の教員免許を取得する小学校教員養成課程に所属する学生について、専門的な技能の習得が困難な状況があるという意見が出された。

作成者：岩手大学 平野英史

【関東地区会】

日時

令和3年7月18日(日)
13:45～15:00

場所

オンライン会議
(zoom、主催：千葉大学)

出席者 全29名

東京学芸大学：清野泰行、西村德行、石井壽郎、鉄矢悦朗、朝野浩行
横浜国立大学：渡辺邦夫、河内啓成、
茨城大学：島田裕之、向野康江
宇都宮大学：株田昌彦、松島さくら子、梶原良成
群馬大学：喜多村徹雄、郡司明子
山梨大学：栗田真司、村松俊夫、武末裕子
埼玉大学：小澤基弘、内田裕子、高須賀昌志、石上城行
筑波大学：直江俊雄、仏山輝美
千葉大学：小橋暁子、宮崎甲、後藤雅宣、加藤修、神野真吾、佐藤真帆

■地区総会

- ・地区会長あいさつ(神野)
- ・日程説明(小橋)
- ・議長団選出 議長(神野) 副議長(向野)
- 1. 前年度議事録の確認 別紙をもとに確認された。
- 2. 令和2年度関東地区会収支決算報告(横浜国立大学)
- 3. 令和2年度関東地区会会計監査報告(東京学芸大学) 承認
- 4. 令和3年度・4年度全国美術部門地区全国委員選出
R3年・R4年度 向野康江(茨城大学)、神野真吾(千葉大学)
- 5. 令和3年度・4年度大学美術教育学会地区全国理事選出
R3年・R4年度 向野康江(茨城大学)、神野真吾(千葉大学)。
- 6. 令和4年度地区総会・協議会の開催について 当番大学(茨城大学) 確認
- 7. 令和3年度会計大学、監査大学について 会計大学(千葉大学)、監査大学(横浜国立大学)
- 8. その他 なし

■協議会

1. 承合事項

各承合事項について大学間で承合。項目は次の通り。

教職大学院の現状及び問題点、COVID-19の流行に伴う対応/授業について、教員採用試験と卒業生の進路、入試状況、大学の組織・体制、カリキュラムについて

2. 協議事項

- 1) R3年度、教大協関東地区会への補助金を申請の要無、また申請する場合の補助金の用途について議論し、『美術教育の理論と実践第2号』刊行費補助とそれに付随する活動費として申請をすることとした。
- 2) 『美術教育の理論と実践第2号』の発刊について【山梨大学・栗田】

上記の補助金とも関連するが山梨大学より2018年3月に発刊した『美術教育の理論と実践』の第2号の発刊提案され、承認された。年度内に刊行するため編集委員会を構成する。

3. その他

・地区会開催場所について【千葉大学・後藤】各大学を会場とせず、集まりやすい会議場などを利用する提案があり、コロナ感染拡大の状況が収まる時期を見計らいつつ、継続して議論をしていくことが確認された。

作成者：千葉大学 神野真吾

【北陸地区会】

日時

令和3年6月30日(水)
13:00～15:00

場所

Zoomでの遠隔会議

出席者 全21名(敬称略)

金沢大学：大村雅章、江藤望、池上貴之
新潟大学：三村友子、橋本学、佐藤哲夫、柳沼宏寿
富山大学：上山輝、鼓みどり、隅敦
福井大学：湊七雄、坂本太郎
上越教育大学：伊藤将和、洞谷亜里佐、松尾大介、安部泰、

■協議事項

1. 令和3年度事業計画と会計予算
2. 年会費について
3. 大学改革の今後について
4. 承合事項と協議事項で扱う内容について(両事項の違いを明確にし、審議すべき事項を十分に協議したいため)
5. 今後の協議会の在り方について(遠隔での会議開催等を含めて)

■報告事項

1. 日本教育大学協会美術部門委員会報告
2. 大学美術教育学会理事会報告
3. 令和2年度事業報告と会計報告

■承合事項(各事項を6大学間で確認)

1. コロナ禍におけるオンライン授業について
- ・コロナ禍における美術科の講義形態につい

て(工夫など)

・今コロナ禍でICT教具やオンライン活用での美術科教育の在り方が教育現場でも急激に変容しているところですが、各大学での実際の授業デザインや実技等の講義・実技指導ではどのように対応されていますか。また、具体的なものがあれば教えていただきたいところ。

・遠隔授業(Zoom等)になった場合の作品制作課題の実施について

・実技科目のオンライン授業の内容や方法について

・今年度も新型コロナウイルス感染予防のため、実技科目もオンライン授業が求められる事が想定されます。他大学での実施状況と方法についてご教示願いたい。

・オンライン授業の功罪について

2. GIGA スクール

兪期天、五十嵐
史帆
信州大学：猪瀬昌延、岡田
匡史、大島賢一

・ギガスクールに対応した教育への取り組み
・GIGA スクール構想の実現に向け、各自治
体で ICT の環境整備が進められています。地
域の学校教員らの支援が求められていますが、
具体的な動きはありますか。特徴的な取り組
みなど情報共有をお願いします。

3. 大学改革

・大学改革における教育学部や美術科の現状

4. 入試

・各大学の受験者数を増やす取り組みは？そ
のための広報活動は？

■その他

1. 大学美術教育学会全国大会（北陸地区）の
次回当番大学
2. 令和4年度北陸地区美術部門研究協議会当
番大学

■継続審議

日時：令和3年7月19日（月）
～9月15日（水）

メール審議

出席者：全6名

1. 規程改正（案）文書について

作成者：上越教育大学 松尾大介

【東海地区会】

日時

令和3年9月12日（日）
10:00～12:00

場所

Zoomによる遠隔会議

出席者 全23名

静岡大学7名：大宮康男、
伊藤文彦、芳賀正
之、高橋智子、川
原崎知洋、名倉達
了、占部史人

愛知教育大学8名：遠藤透、
松本昭彦、富山祥
瑞、鷹巣純、佐々
木雅浩、永江智尚、
杉林英彦、井戸真
伸

三重大学4名：山田康彦、
岡田博明、関 俊
一、奥田真澄

岐阜大学4名：河西栄二、
野村幸弘、山本政
幸、隼瀬大輔

■協議事項

1. 令和3年度部門・学会地区委員について

令和2・3年度担当委員の関俊一氏（三重
大学）の継続、令和3・4年度担当委員とし
て杉林英彦氏（愛知教育大学）の選出、およ
び令和4・5年度担当委員の野村幸宏氏（岐
阜大学）の予定を確認した。令和3年度事務
代表として幹事校の伊藤文彦（静岡大学）が
担当することとなった。

2. 次年度（令和4年度）開催地について

令和4年度東海地区会開催校は、地区内
でのローテーション（三重大学→岐阜大学→静
岡大学→愛知教育大学）にもとづき、愛知教
育大学に決定した。

■報告事項（各大学の現状、新規入退会者、 情報共有など）

1. 各大学の新型コロナウイルス感染対策と講 座における授業実施の状況について

新型コロナウイルス感染症対策にともなう、
今年度前期の各大学での授業の実施状況や後
期の見通しが報告された。各大学におけるワ
クチンの職域接種状況、Zoom等による遠隔
授業や実技科目の取り組みについて、様々な
報告が行われた。また、後期に向けての授業
方針について、各大学の対策方針が報告され
るとともに、教室の収容人数の調整や、対面
授業と遠隔授業を併用する授業方法について
も意見交換が行われた。さらに、各大学にお
ける教育実習の実施状況についても報告があ
り、静岡大学の一部の実習を除いては、感染
対策を徹底した上で実施予定であることが報
告された。

2. 志願者数の動向（入試情報）について

各大学の学部・大学院における入学志願者
数の動向と入試の変更点等が報告され、推薦
入試の状況や小論文の導入などについて意見
交換が行われた。中でも、静岡大学の後期入
試における実技科目廃止と小論文の導入につ
いては質疑が集中し、今後の動向やその影響
について注視していくことが確認された。

3. 卒業生・修了生の動向（進路情報）につ いて

各大学の令和2年度（過去3年間の動向も
含め）卒業・修了生の進路状況について報告
された。教職、公務員、一般企業、進学など
の進路割合については、ほぼ例年並の傾向で
あった。教職希望がやや増加しつつある大学
もあったが、教職大学院への進学については、
まだ僅かである状況が報告された。

4. 各大学学部・大学院における改革・改組等 の状況について

各大学における組織改革の状況が報告され
た。学部の教員養成課程の改組・再編にとも
なう定員の増減、さらに新たに始まった教職
大学院の取り組み状況について報告があった。
教職大学院においては、美術教育分野を志望
する院生数の伸び悩み、美術の専門科目の設
置状況などについて種々意見交換が行われた。

■その他

1. 昨年度の卒業制作展の開催状況及び今年度 の計画等

昨年度の卒業制作展は、静岡大学だけが
Webのみによる開催となり、その具体的内容
やメリット・デメリットについて報告があっ
た。今年度は4大学とも新型コロナウイルス
感染対策をした上で、リアルな会場での開催

が予定されているとの報告があった。

2. 全国大会（山形）のご案内

全国美術部門総務局長の芳賀正之氏（静岡大学）より、第60回大学美術教育学会 山形大会（Zoom開催）の案内があった。

3. その他

今年度をもって定年退職により退会される大宮康男氏（静岡大学）、富山祥瑞氏（愛知教育大学）より退会の挨拶があった。

作成者：静岡大学 伊藤文彦

【近畿地区会】

日時

令和3年（2021年）
6月5日（土）
10：00～12：30

場所

リモート会議（zoom）

出席者（敬称略）

大阪教育大学：谷村さくら、
寺島みどり
奈良教育大学：原山健一
兵庫教育大学：前芝武史
神戸大学：勅使河原君江
京都教育大学：丹下裕史、
日野陽子
滋賀大学：藤田昌宏
和歌山大学：寺川剛央、永
沼理善

報告・協議事項

1. 会員数、入退会者の確認

退会者：大阪教育大学（1／退職）
会員数：大阪教育大学（10）、奈良教育大学（6）、
兵庫教育大学（7）、神戸大学（2）、滋賀大学
（4）、京都教育大学（5）、和歌山大学（2）

2. 全国大会の報告と案内

昨年度（宇都宮大会／リモート会議）の報告：
京都教育大学（日野）
今年度（山形大会）の日程・会議形態（オン
ライン）などの案内：滋賀大学（藤田）

3. 令和3年度以降の地区理事の確認

2020－2021年度：滋賀大学（藤田）／
2021－2022年度：和歌山大学（永沼）／
（2022－2023年度：大阪教育大学／以降：奈
良教育大学→兵庫教育大学→京都教育大学→
滋賀大学の輪番）

4. 地区会の会計事務について

担当大学や引き継ぎ状況などの確認のため
情報交換。地区会後改めて事務方に確認の上、
各大学へ報告・共有することとなった。（後日、

状況の確認、整理、報告済み）

5. 各大学からの状況報告

各大学より資料をもとにコロナ禍での各大学
の苦労・工夫の共有、所属学生の動向、大
学の動向、などの報告と情報交換が行われた。

○コロナ禍での苦労・工夫

当該及び近隣府県への緊急事態宣言発出に伴
う各大学の授業のオンライン化などの対応状
況とともに、実技科目におけるオンラインで
の制作指導の難しさや、材料・用具の配布や
指導の際の工夫、対面授業実施の際の感染防
止対策、学生の海外研修プログラムへの影響、
卒業制作展のWeb開催などが報告された。

○所属学生の動向

各大学の学生・院生の在籍状況や教員採用（就
職）状況などについて報告された。

○各大学の動向の報告

共通して教職大学院への移行状況や定員充足
に苦慮している様子、大学の法人統合や新大
学院の始動、退職者等の後任補充が進まない
状況、予算配分への危惧などが報告された。

作成者：和歌山大学 永沼理善

【四国地区会】

日時

令和3年6月24日（木）
17：00～18：30

場所

Zoomによる
オンライン会議

出席者 全4名

鳴門教育大学：山田芳明
愛媛大学：福井一真
高知大学：金子直正
香川大学：吉川暢子

■協議事項

1. 令和3年度部門・学会地区委員について

令和3年度の四国地区全国理事として、香
川大学：吉川暢子（令和2－3年）、愛媛大学：
福井一真（令和3－4年）にお願いすること
となり、了承された。

2. 各大学の構成について

各大学の美術部門所属教員の構成について
情報交換を行った。構成員の変更はないこと
が報告された。

3. 会計の引き継ぎ

（1）令和2年度会計担当の山田（鳴門教育大
学）から、令和3年度会計担当の吉川（香川
大学）への引き継ぎが確認された。
（2）令和3年度支部会費納入について確認を
行った。

なお、今回はオンラインにより会議を行っ
た関係で、会計関係書類及び各大学の会費は、
会議に先立って各大学、各担当より令和3年
度会計担当者の吉川（香川大学）宛に事前に
現金書留等により送付された。その際の送料
について検討された。今後も対面ではなく、
オンラインでの四国地区会の開催となった場
合、送料を差し引いた形での会費を払うなど
の提案がされた。

■報告事項（各大学の現状、新規入退会者、 情報共有など）

1. コロナ禍における各大学の授業対応

コロナ禍における授業の対応などについて
各大学から状況報告

高知：オンライン実施、鳴門教育大学、愛

媛大学、香川大学：対面（一部、オンラインと併用あり）

2. ワクチンの接種（職域接種）について

各大学の学生・教職員のワクチン接種について、各大学から状況報告。

高知大学：未定、愛媛大学：接種に関するアンケートを実施した上で、附属病院にて接種、鳴門教育大学：徳島大学にて接種、香川大学：学内で接種。

■その他

1. 第62回大学美術教育学会の開催について

第62回大学美術教育学会は香川で開催されることが確認された。四国地区内で協力して行うことが確認された。また、それに伴う学会の打ち合わせ等に関わる移動（旅費）について、四国地区会の予算を使用するかについて協議された。

2. 四国地区会の会費・書類の受け渡しについて

今後、オンラインでの四国地区会の開催となった場合の会費や書類の受け渡しについて協議された。

作成者：香川大学 吉川暢子

【中国地区会】

日時

2021年6月5日（土）
13:00～15:30

開催担当

岡山大学

開催方式

web会議システム：Zoom

出席者

山口大学：中野良寿・平川和明・吉田貴富
広島大学：池田史志・井戸川豊・多田羅多起子
島根大学：有田洋子・藤田英樹
岡山大学：赤木里香子・大橋功・清田哲男・河本昭政・山本和史（司会進行）

【1】研究会（13:10～13:40）

岡山大学：清田哲男先生より、岡山大学においてクリエイティブ・エデュケーター（CE教員）育成を目指す、複数教科連携でCER・Lab（クリラボ：リエイティブラボラトリー）が創設され、初回フォーラムの様子と今後の研究連携について報告があった。

【2】地区理事交代挨拶

前理事 2019-2020年度：井戸川豊（広島大学）
継続理事 2020-2021年度：山本和史（岡山大学）
新理事 2021-2022年度：藤田英樹（島根大学）

【3】総会（13:50～15:30）

1. 報告

(1) 理事会報告 山本和史（岡山大学）
(2) 2020年度会計報告 平川和明（山口大学）
メール回覧による全員監査が確認され、承認された。

2. 協議

(1) 教大協研究会等補助金について 山本和史（岡山大学）

原案：総会当番校の判断に一任する案が提示され、承認された。

今後の補助金申請に関し、Web会議システムの経費や担当校の開催状況を鑑み、申し合わせ記載を次年度検討することとした。

(2) 2021年度以降の会計のあり方について

一昨年度から山口大学が管理して来たが（2019-2020）、地区会規程通り輪番で担当大学へ会計を回すこととなった（2021岡山大学）。受け渡し方、管理方法について、情報交換しつつ各大学で検討することとした。

4. 次期定例総会当番大学挨拶

島根大学：藤田英樹（2021-2022年度理事）

作成者：岡山大学 山本和史

【九州地区会】

日時

令和3年7月8日（木）
14:30～17:40
（途中休憩10分程度）

場所

オンライン会議

出席者 全13名

佐賀大学：栗山裕至、和田学
長崎大学：兼原啓二
熊本大学：梅田素博、喜久山悟、松永拓己

■協議議題

1. 今後の免許制度のあり方について（福岡教育大学）

教員数の削減や改組等により、これまで教育学部で取得できていた免許種の維持が困難な状況にある。一方で幼小連携、小中連携（一貫教育）、中高連携といった地域ごとの学校種をつなぐ仕組みのニーズは高まっており、小学校に専科制度を敷く動きも具体化しつつある。

協議会では、承合事項（1）～（4）の各大学の現状を把握したうえで、今後の免許制度のあり方について、承合事項（5）、（6）

の内容を中心に協議し、情報の共有と大学間の連携意識の深化を図った。

■承合事項

1. 各大学の教員数や専門領域と学生が取得可能な免許種について【書面】（福岡教育大学）

各大学型事前に提出された資料を基に、教員数や専門領域、学生が取得可能な免許種について確認した。

人員削減が著しいなか、複数の専門領域を担当することで取得できる免許種を減らさない工夫がみられたが、教員の負担が大きくな

大分大学：廣瀬剛、藤井康子、村上佑介
宮崎大学：幸秀樹、大野匠、大泉佳広、樺島優子
鹿児島大学：小江和樹、桶田洋明
琉球大学：亀井洋一郎
福岡教育大学：篠原利朗、宮田洋平、千本木直行、松久公嗣、笹原浩仁、本田代志子、加藤隆之

ることや学生に提供できる専門的な内容が薄まることへの懸念が示された。

2. 教育学部教員補充の現状と、採用が行えない場合の課程認定への対応について【当日口頭】(鹿児島大学)

人件費の削減のため教員補充が難しいという現状があるなか、課程認定に必要な教員数の確保も難しくなっている。このような状況を踏まえ各校では課程認定に対しどのような対策を取っているのか、各大学の現状を確認しつつ意見交換した。

大学の方針によっても異なるが、福岡教育大学のように課程認定に必要な最低限の教員数は確保する方向で採用人事が進められている大学もある。教員の必要性和複数の専門性を有する人材の採用など、2つの側面から対応策を講じる必要があることが確認できた。

3. 退職教員の後任人事の状況(常勤・特任・非常勤など)について【書面】(鹿児島大学)

学科内で退職教員が出た際の後任人事の状況を確認した。常勤・非常勤などの勤務形態に加え、講師や助教など職階についても同様に情報交換した。

後任補充が進まない中で、非常勤講師による授業担当が多くなっている。また、他の専任教員が最低限の必修科目を担当する事態もあり、教員の業績等、課程認定上の問題点も出てくることが懸念される。

4. 幼稚園教諭免許の取得に関わる新規開講科目(現在本学は、文科省課程認定申請にむけて準備中です)の中で、造形表現関連の科目がありましたら、担当の方と内容について教えて頂きたい。【当日口頭】(佐賀大学)

幼稚園教諭免許の教職課程について、『『領域に関する専門的事項』に開設する授業科目は、施行規則第2条第1項表備考第1号に規定する健康、人間関係、環境、言葉、表現の領域のうち、一種免許上の課程認定を受ける場合は5領域、二種免許上の課程認定を受ける場合は4領域以上の科目ごとに授業科目が開設されなければならない』とある。また、免許法改正に伴い、小学校の教科に関する科目と幼稚園の領域に関する科目の共通開設(例：小学図画、小学工作)ができなくなり、

新規開講が必要となってきた。

人員削減などから、専門とする常勤教員の配置が困難かと思われるが、各大学でどのような担当体制と授業内容を設定しているのか情報交換し意見を交わした。

5. 小中一貫教育や小学校専科教育の導入を見据えた各大学の免許制度の方向性【当日口頭】(福岡教育大学)

文科省は小学校専科教育の方向性を打ち出し始めており、各大学でも複数の学校種の免許を取得できるカリキュラムの整備が必須となってくる。学校現場や教育委員会からの要望に応えることのできるカリキュラムの改善あるいは現有制度の維持が求められるだろう。

6. 地域で免許を取得できるようにする大学間連携の現状と今後の予定【当日口頭】(福岡教育大学)

全国的にみると四国の5大学が地域ネットワークを立ち上げて大学間の連携で単位を取得するカリキュラムが令和5年度開設に向けて動き出している。

九州ではこのような方策は現在のところ検討されていないが、人員の削減によって学生が取得できる免許種が削減されるなどする場合は、他大学との連携を検討せざるを得ないだろう。しかし、現在も制度として大学間連携による単位取得が可能な科目があるが、取得に係る開講期や評価の問題等が多くあるので、遠隔授業の拡大や開講期、授業時間帯などの問題解決が重要となるだろう。

7. 附属校園における図画工作科、美術科担当教員との通常授業、教育実習等に関する情報共有の在り方について【当日口頭】(大分大学)

附属校園との連絡や連携を円滑に行うための取り組み事例について、各大学から情報を提供してもらい参考とした。

附属校園の立地場所やそれぞれの担当教員の数にも左右されるが、LINEグループを構成して連絡を密にするなど工夫して進めている大学もあった。

8. 第4期中期目標・中期計画に向けて、その取り組み方や方針についてご教示いただきたい。【当日口頭】(宮崎大学)

① 各大学の学部における重点研究領域の研究

テーマやキーワードについて

② 美術教育講座として関わっている研究について

Society5.0における新しい教育のあり方や、特別支援教育の充実など、文科省の方針や各大学の状況に即したキーワードと、それらに関する研究事例が紹介された。今後はGIGAスクール構想やSTEM教育関連、SDGs関連など、現代的なキーワードに沿った研究開発も予測できる。

9. オープンキャンパス等、美術教育を目指す学生を獲得するための工夫について【当日口頭】(琉球大学)

近年、琉球大学での志願倍率は2倍を下回る状況が続いており、高等学校で芸術科目として美術を選択しない高校生も増えているように感じられる。学校現場で美術科専任教員が少ない現状もあわせ、今後の受験数の推移についても危惧される。このような状況の中、美術教育に意欲的な学生を獲得するために工夫している例について情報を交換し、各大学の参考とした。

10. 初等コースからの美術科への所属の状況、ガイダンスの工夫などについて【書面】(鹿児島大学)

鹿児島大学では昨年度より中等のみの入試となり、初等以外の学科との一括りの入試に

合流する形になった。昨年度は初等から美術科へ所属した学生が少なく学生の獲得に苦戦している状況であり、他大学ではどのような工夫をしているのか情報を交換した。

各大学の初等学生の美術希望者は若干名となっているが、福岡教育大学では全教科・領域中、「教育学」の115人に次ぐ2番目の多さで、30～40名を受け入れていることが報告された。

その他

・大学美術教育学会全国大会がオンラインで実施されることが報告された。

これに伴い、昨年と同様に二部会費用として徴収していた3,000円が必要なくなるので、徴収をしないことが了承された。

次期当番校
佐賀大学

これまでは慣例として協議の前半を当番大学、後半を次期当番大学が担当していたが、人員削減も著しいなか、大学が連携して分担していくことを確認した。

宮崎大学が会場となる全国大会についても、対面・オンラインによって開催方法も異なるが、対面での実施の場合は九州の各大学に司会等の協力を呼び掛ける予定である。

作成者：福岡教育大学 松久公嗣

■学校美術教育支援委員会報告

第73回全国造形教育研究大会北海道大会（兼第70回全道造形教育研究大会札幌大会）は、令和3年10月2日（土）に、「わたし」を創る～今を生きる、共に生きる造形教育～」を大会テーマに、オンラインで開催された。本大会では各校種別会議がなかったことから、大学部会は昨年度に引き続き、実施には至らなかった。なお次年度以降も、以下4点の主たるテーマ（1. 大学教員による美術教育研究への積極的な支援、2. 教員養成系大学の課題についての現状報告と情報交換、3. 美術教育関連8団体の継続と学会統合問題、4. 美術館教育の現状）について、継続的に検討する予定である。

●中学校美術科教員実態調査結果について

平成26年3月に全国大学造形美術教育教員養成協議会と日本教育大学協会（以下、教大協）全国美術部門とで組織された大学造形教育連絡協議会の事業の一環として、全国造形教育連盟大学部会（学校美術教育支援委員会が兼務）において中学校の美術科の専任教諭や非常勤講師の中学校へ

の配属状況等について把握するための「中学校美術科教員実態調査」を実施することを決定し、これ以降、継続的に調査をしている。

令和3年度においては、全国造形教育連盟に所属する各都道府県・政令指定都市の事務局を対象に質問紙調査（7月～12月）を行い、19の事務局から回答を得た（回収率約40%）。

調査の結果、美術科の専任教諭を配置している学校は約57%、配置していない学校は43%あること、非常勤教員・講師で対応している学校や免許外教員で対応している学校の数は都道府県によって大きな差があることなどが明らかになった。

この結果は、令和3年度教大協全国研究部門代表者連絡協議会を通して、教大協会長へ「中学校美術科担当専任教諭の適正配置に関する要望書」として提出した。

本調査は、信頼性・有用性の向上を目指して調査方法や調査時期などを改善しながら、継続的に実施していく予定である。

令和3（2021）年度 役員会報告

令和3（2021）年度 第1回 日本教育大学協会全国美術部門役員会 議事録

日時：令和3年9月24日（金）16：00～17：00

場所：山形県生涯学習センター 遊学館、オンライン会議（zoom）

出席者：八重樫・代表・理事長、新関・副代表、新井・副理事長、秋山・副理事長、佐藤・顧問、芳賀・総務局長、村田・副総務局長、松尾・副総務局長、総務局員（福井、吉川、藤井、手塚、高林）、大会運営委員（小林、幸）、新野・監事、地区全国委員（福江、佐々木、平野、虎尾、神野、向野、岡田、関、杉林、藤田昌宏、永沼、山本、藤田英樹、宮田、栗山）、西村・学校美術教育支援委員会委員長、私立大学全国理事（鳥越、浅野）

進行：芳賀

書記：村田

I あいさつ

- ・開会の辞：議事に先立ち、新関・副代表より開会の辞がなされた。
- ・代表挨拶：議事に先立ち、八重樫・代表より代表挨拶がなされた。

II 報告事項

1. 令和3年度 部門会員登録状況

- ・芳賀・総務局長より令和3年度 部門会員登録状況（278名）の報告がなされた。

2. 令和3年度 役員・各種委員会委員

- ・芳賀・総務局長より資料「令和3年度 日本教育大学協会全国美術部門 役員・各種委員会委員一覧」に基づき、報告がなされた。

3. 令和2年度 事業報告

- ・芳賀・総務局長より資料「令和2年度 日本教育大学協会全国美術部門 事業報告」に基づき、報告がなされた。

4. 令和3年度 部門会員名簿

- ・村田・副総務局長より「令和3年度 部門会員名簿」作成に関する説明と協力依頼がなされた。

5. 部門各種委員会

(1) 学校美術教育支援委員会

- ・西村・学校美術教育支援委員会委員長より、令和2年度の全造連・千葉大会の中止、令和3年度の全造連・北海道大会のオンライン開催予定（10月、大学部会は中止）、全国の中学校美術教員配置の実態調査の経過報告がなされた。

6. 令和3年度 部門協議会

- ・新関・副代表より、大会冊子の「令和3年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会」に基づき、説明がなされた。

III 協議事項

1. 令和4-5年度 部門代表・副代表（案）

- ・八重樫・代表により、資料「日本教育大学協会全国美術部門 令和4-5年度 代表、副代表（案）」に基づき提案（次期代表：新関伸也、次期副代表：新井浩、相田隆司）がなされ、承認された。

2. 令和2年度決算、令和3年度 事業計画（案）・予算（案）

(1) 令和2年度 決算

- ・芳賀・総務局長より、資料「令和2年度 全国美術部門 決算」に基づき説明がなされ、承認

された。

(2) 令和2年度 監査

- ・新野・監事より、資料「令和2年度 日本教育大学協会全国美術部門 監査報告書」に基づき説明がなされ、承認された。

(3) 令和3年度事業計画(案)

- ・芳賀・総務局長より、資料「令和3年度 日本教育大学協会全国美術 事業計画」に基づき説明がなされ、承認された。

(4) 令和3年度予算(案)

- ・芳賀・総務局長より、資料「令和3年度 全国美術部門 予算案」に基づき説明がなされ、承認された。

3 令和3年度 部門会報

- ・芳賀・総務局長および高林・総務局員により、資料「令和3年度 地区会報告」に基づき説明がなされた。

4 次年度以降の地区会の委員選出

- ・芳賀・総務局長より、次年度の地区会の委員選出についてお願いがなされた。

5 次年度以降の部門協議会

- ・新関・副代表および芳賀・総務局長より、次年度以降の部門協議会について、各地区からテーマや内容について、総務局に挙げてほしい旨のお願いがなされた。

IV その他

- ・山本・中国地区全国委員より、オンライン開催の会議の際の2件の要望(事前に会議資料の送信、オンライン会議の録画)があった。芳賀・総務局長より、会議資料の事前送信は可能であり、オンライン会議の録画は今後、総務局内で

検討していくことと、議事録を速やかに作成して共有する旨の説明がなされた。

V あいさつ

- ・閉会の辞:佐藤・顧問より閉会の挨拶がなされた。

令和3（2021）年度 第2回 日本教育大学 協会全国美術部門役員会 議事録

メール、及びオンライン(令和4年3月31日(金)
14:30～15:00) 会議

オンライン出席者：

八重樫・代表・理事長、新関・副代表、新井・副
理事長、秋山・副理事長、佐藤・顧問、芳賀・総
務局長、村田・副総務局長、松尾・副総務局長、
総務局員（福井、藤井、高林、前芝）、幸・大会
運営委員、地区全国委員（平野、虎尾、岡田、杉
林、藤田、栗山）、西村・学校美術教育支援委員
会委員長、私立大学全国理事（浅野）

進行：芳賀

書記：松尾

I あいさつ

- ・開会の辞：議事に先立ち、新関・副代表より開会の辞がなされた。
- ・代表挨拶：議事に先立ち、八重樫・代表より挨拶がなされた。

II 報告事項

1. 令和3年度 第2回日本教育大学協会全国美術部門役員会・大学美術教育学会理事会（メール会議）

- ・芳賀・総務局長より事前に送信された資料（メール会議）の内容について、報告がなされた。

2. 令和4年度日本教育大学協会全国美術部門協議会について

- ・新関・副代表より、令和3年度開催した美術部門協議会について報告があり、令和4年度は若い学会員（大学教員）の考えをとり上げた企画を検討したい旨の提案がなされた。

3. 委員会報告

- ・西村・学校美術教育支援委員会委員長より、今年度はコロナ禍により、本委員会の活動は特に無かった旨の報告があった。

4. その他

なし

III 協議事項

なし

IV その他

なし

V あいさつ

- ・閉会の辞：佐藤・顧問より閉会の挨拶がなされた。
- ・今年度で任期終了となる八重樫・代表より挨拶がなされた。

令和3（2021）年度 総会報告

令和3(2021)年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会総会 議事録

日時：令和3年9月25日（土）

13：50～14：20

場所：山形県生涯学習センター「遊学館」/オンライン開催

進行：小林 俊介（山形大学運営委員）

書記：村田透（副総務局長）

1. 挨拶

・八重樫・理事長より挨拶がなされた。

2. 議長団選出 総務局

・議長（松尾・副総務局長）が選出された。

3. 議 事

【報告事項】

(1) 令和3年度 役員・各種委員等

・八重樫・代表より、大会冊子の「令和3年度日本教育大学協会全国美術部門 役員・各種委員会委員一覧」に基づき、報告がなされた。

(2) 令和2年度 事業

・芳賀・総務局長より、大会冊子の「令和2年度日本教育大学協会全国美術部門 事業報告」に基づき、報告がなされた。

(3) 令和2年度 決算

・芳賀・総務局長より、別紙資料「令和2年度全国美術部門 決算」に基づき、報告がなされた。

(4) 令和2年度 監査

・新野監事より、別紙資料「令和2年度日本教育大学協会全国美術部門 監査報告書」に基づき、報告がなされた。

(5) 令和4年度 協議会の開催大学

・芳賀・総務局長（幸・大会運営委員代理）より、令和4年度開催大学（宮崎大学）について報告がなされた。

(6) その他

・特に無し。

【協議事項】

(1) 令和4-5年度 代表・副代表（案）

・八重樫・代表より、別紙資料「日本教育大学協会全国美術部門 令和4-5年度 代表、副代表（案）」に基づき提案（次期代表：新関伸也、次期副代表：新井浩、相田隆司）がなされ、承認された。

(2) 令和3年度 事業計画（案）

・芳賀・総務局長より、大会冊子の「令和3年度日本教育大学協会全国美術 事業計画」に基づき説明がなされ、承認された。

(3) 令和3年度 予算（案）

・芳賀・総務局長より、別紙資料「令和3年度全国美術部門 予算案」に基づき説明がなされ、承認された。

(4) その他

・特に無し。

4. 議長団解任

5. 閉会の辞

新関・副代表より、閉会の辞がなされた。

令和2（2020）年度 全国美術部門 決算

■収入の部

(円)

	費目	予算額	決算額	増減	備考
年会費	会費	861,000	720,000	-141,000	3,000円×240名
	未納分	0	147,000	147,000	
助成金	教大協助成金	60,000	60,000	0	
繰越金	繰越金	849,795	849,795	0	
	合計	1,770,795	1,776,795	6,000	

■支出の部

(円)

	費目	予算額	決算額	増減	備考
補助金	全国協議会補助金	200,000	200,000	0	宇都宮大会
印刷製本費	会報発行	150,000	73,313	-76,687	
	名簿発行	0	0	0	
運営費	運営委員会・拡大総務局会	300,000	107,281	-192,719	旅費
	会場費	50,000	0	-50,000	会場費
	各種委員会等	50,000	14,724	135,276	部門調査
事務経費	通信費	100,000	65,169	-34,831	会費請求
	事務費	10,000	4,785	-5,215	
	雑費	10,000	770	-9,230	手数料
委託費	事務支局業務委託費	99,000	99,000	0	会員管理業務
負担金	全造連負担金	4,000	4,000	0	年会費
予備費	予備費	797,795	0	797,795	
	合計	1,770,795	569,042	-228,753	

◆収入の部－支出の部＝ 1,207,753（次年度へ繰越）

令和3（2021）年度 全国美術部門 予算案

■収入の部

(円)

	費目	前年度決算額	予算額	増減	備考
年会費	会費	720,000	861,000	141,000	3,000円×287名 (令和3年度会員)
	未納分	147,000	0	-147,000	
助成金	教大協成金	60,000	60,000	0	
繰越金	繰越金	849,795	1,207,753	357,958	
	合計	1,776,795	2,128,753	351,958	

■支出の部

(円)

	費目	前年度決算額	予算額	増減	備考
補助金	全国協議会補助金	200,000	200,000	0	山形大会
印刷製本費	会報発行	73,313	150,000	76,687	全国美術部門会報 No. 55 (発送費込み)
	名簿発行	0	300,000	300,000	隔年発行
運営費	運営委員会・拡大総務局会	107,281	300,000	300,000	旅費
	会場費	0	50,000	50,000	会場費
	各種委員会等	14,724	50,000	35,276	部門調査
事務経費	通信費	65,169	100,000	34,831	会費請求
	事務費	4,785	10,000	5,215	
	雑費	770	10,000	9,230	手数料
委託費	事務支局業務委託費	99,000	99,000	0	会員管理業務
負担金	全造連負担金	4,000	4,000	0	年会費
予備費	予備費	0	1,005,753	—	
	合計	569,042	2,128,753	1,559,711	

令和2(2020)年度 事業報告

4月6日(月)	「宇都宮大会一次案内」郵送・HP掲載
5月22日(金)	R2 論文集『日本教育大学協会研究年報』査読候補者推薦
7月13日(月)	「宇都宮大会二次案内」郵送(取消)
7月26日(日)	第1回運営委員会、第1回総務局会(オンライン会議)
8月3日(月)	「宇都宮大会案内(WEB開催)」ホームページ開設、メール配信
8月26日(水)	「宇都宮大会WEB開催案内」
9月15日(日)	第2回運営委員会、第2回総務局会(オンライン会議)
9月16日(水)	令和元年度会計監査(新野監事・原口監事)
9月18日(金)	大会前日諸会議：第1回全国美術部門役員会 「宇都宮大会冊子」pdf版 HP掲載
9月19日(土)～9月20日(日)	令和2年度日本教育大学協会全国美術部門協議会(WEB開催)：部門開会式、部門協議会、部門閉会式、部門総会、大会開催大学引継ぎ(次期開催大学-山形大学)
10月10日(土)	「部門会報No.54」発行・郵送
11月21日(木)～11月22日(金)	第73回全国造形教育研究大会 千葉大会(全国造形教育連盟大学部会)(中止)
11月30日(月)	「宇都宮大会概要集・記録集」郵送・HP掲載
12月18日(金)	日本教育大学協会全国研究部門等における要望等の提出
(令和3年)1月	日本教育大学協会全国研究部門連絡協議会(東京学芸大学本部)(延期)
3月18日(金)	第3回運営委員会、第3回総務局会
3月31日(木)	第2回部門役員会(メール会議)
4月7日(水)	日本教育大学協会への事業報告(R2.4-R3.3事業分)
	*上記のほか、運営委員会(メール会議)等を随時開催

令和3(2021)年度 事業計画

5月31日(月)	R3 論文集『日本教育大学協会研究年報』査読候補者推薦
6月13日(日)	第1回運営委員会、第1回総務局会(オンライン会議)
6月23日(水)	「山形大会オンライン開催案内」郵送
6月23日(水)	「部門会報No.55」発行・郵送
7月1日(木)	「山形大会案内(オンライン開催)」ホームページ開設、メール配信
9月17日(金)	令和2年度会計監査(新野監事・原口監事)
9月18日(土)	第2回総務局会(オンライン会議)
9月24日(金)	大会前日諸会議：第3回総務局会、第1回全国美術部門役員会
9月25日(土)～9月26日(日)	令和3年度日本教育大学協会全国美術部門協議会(オンライン開催)：部門開会式、部門協議会、部門閉会式、部門総会、大会開催大学引継ぎ(次期開催大学-宮崎大学)
10月2日(土)	第73回全国造形教育研究大会 北海道大会(全国造形教育連盟大学部会)
12月7日(火)	「山形大会概要集・記録集」郵送・HP掲載
(令和4年)1月	日本教育大学協会全国研究部門連絡協議会(東京学芸大学本部)は未開催 ※2月3日に日本教育大学理事会開催(Web会議)
2月20日(日)	第2回運営委員会、第4回総務局会
3月31日(木)	第2回部門役員会(オンライン開催、メール会議)
3月31日(木)	日本教育大学協会への事業報告(R3.4-R4.3事業分)
	*上記のほか、運営委員会(メール会議)等を随時開催

2021年9月24日（金）～26日（日）に、「2021年度日本教育大学協会全国美術部門協議会並びに第60回大学美術教育学会 山形大会」を開催しました。昨年度同様、山形大会は通常の対面形式での開催ではなく、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、オンラインでの開催となりました。役員会議、全国美術部門協議会、口頭発表、ポスター発表、記念シンポジウム、総会に加え、昨年度開催されなかった学生会議を行いました。これらのイベントには7月1日に公開した特設の第60回大学美術教育学会山形大会のホームページを通してアクセスする方式を取りました。また、学会参加にあたっては、昨年度同様に参加費を徴収せず、学会員全員および事前に参加申し込みのあった方にホームページ閲覧のためのパスワードを配信しました。学会当日は大会運営関係者9名および大会配信補助を担当した株式会社デジコンキューブのスタッフ3名が会場の山形県生涯学習センター遊学館に集い、会の進行やライブ配信に務めました。また、概要集の代替として学会終了後に記録集を発刊し、学会員全員に配送しました。

1. 概要

[日程]

○大会前日9月24日（金）午後 役員会議（Zoom 会議）

○大会1日目9月25日（土）

部門開会式、日本教育大学協会全国美術部門主催協議会、学会開会式、総会、大会企画シンポジウム、口頭発表、ポスター発表

○大会2日目9月26日（日）

学生会議、口頭発表、ポスター発表、閉会式

[大会テーマ] メディア・コンテンツと美術教育の未来—with コロナ時代を迎えて—

[会場] 山形県生涯学習センター遊学館

[主催] 日本教育大学協会全国美術部門協議会 / 大学美術教育学会

[運営] 山形大会運営事務局

[発表申込み・事前申込み] ○口頭及びポスター発表の申込（演題登録）7月1日（木）9時～8月31日（火）24時まで

[参加者] ○6月1日付けで学会員726名に向けて大会案内を配信、紙媒体の案内を6月末以降に発送

○学会員以外の参加者（事前申込者）：28名

[学会ホームページ訪問者数]

9月25日（土）：207名、9月26日（日）：130名、8月～11月の総数：2428名

[発表者] 口頭発表26件、ポスター発表13件

2. 大会1日目9月25日（土）

[令和3年度日本教育大学協会全国美術部門開会式、協議会]

全国美術部門の開会式および協議会をZoomおよびYouTubeによるライブ配信にて行いました。協議会（10:20-12:20）では「教員養成縮小期における国立大学の現状と課題Ⅱ—地域課題と美術科教員養成の未来—」というテーマの下、新関伸也先生（滋賀大学）をコーディネーターとして、塚本悦雄先生（弘前大学教育学部 教授・彫刻）、溝口昭彦先生（岩手大学教育学部 教授・絵画）、虎尾裕先生（宮城教育大学 教授・彫刻）、長瀬達也先生（秋田大学教育文化学部 教授・美術科教育）、降旗孝先生（山形大学地域教育文化学部 教授・美術科教育）、新井浩先生（福島大学人間発達文化学類 教授・彫刻）の6名の先生方から、東北の教育学部や教育系大学における地域課題や教員養成の現状について報告され、全体協議では文科省の動向・大学間連携などについて議論されました。大学の美術教育は先細りするばかりではなく、美術のエッセンスを突き詰めることで広く社会に還元できるという議論もありました。

[第60回大学美術教育学会全国大会開会式]

山形大会の開会式（13:20-）をZoomおよびYouTubeによるライブ配信にて行いました。

[部門・学会の総会]

部門および学会の総会(13:50-)を Zoom および YouTube によるライブ配信にて行い、活動計画案、決算・予算報告などについて審議しました。

[大会企画シンポジウム]

「アニメーション・映像と教育」のテーマの下、西野毅史先生(山形大学地域教育文化学部非常勤講師)をコーディネーターとして、長年、国立総合児童センター「こどもの城」において映像やアニメーションのワークショップを行ってきた映像作家の昼間行雄先生(文化学園大学造形学部 教授)、「光の箱」などの光学原理や映像の基本システムを応用した様々なワークショップを考案し各地で行ってきた美術家の松村泰三先生(東北芸術工科大学芸術学部 准教授)、コマ撮りアプリ「KOMA KOMA」の開発や文化庁の人材育成プログラム「アニメーションブートキャンプ」のディレクターを務められてきたアニメーション作家の布山タルト先生(東京藝術大学大学院映像研究科 教授)の御三方をお招きし、これまで行われてきた活動についてお話しを伺いました。アニメや映像を通じて何ができるのかという問いから、豊かな学びの場が広がっていくこと、アニメーションは我々に元気を与えてくれる(animateする)ものであり、また世界の探求の入り口を提供してくれるものであることを実感できる内容でした。

[口頭発表、ポスター発表]

25、26日の両日に行われた口頭発表、ポスター発表では鑑賞教育、教材開発、材料・素材・用具研究、美術史、美術理論、幼児や障害者の造形教育などに関する発表がありました。これらはホームページ内の個別の発表ページ内でオンデマンド配信されました。また、それぞれのページにはコメント記入欄フォーム送信欄が設置され、これらを通して活発な意見の交換がなされました。

3. 大会2日目9月20日(日)

[学生会議]

第11回全国美術教育学生会議は、教員養成課

程や美術大学、教育系学部・学科で美術教育を学ぶ学生たちを対象に、10:00より11:30までオンライン(Zoom)で開催されました。全体テーマ「美術教育/美術の学びを社会でどのように活かすことができるのか」の下、手塚千尋先生(明治学院大学)をコーディネーターとして、コロナ禍での大学の学びやそこでの気づきをもとにグループディスカッションが行われました。

[閉会式]

山形大会の閉会式(13:20-)を行い、大会後オンデマンド配信しました。

4. 大会運営について

多くの発表者、参加者、本部事務局、企業の方々の支援により、盛会となりましたことに御礼申し上げます。なお山形大会は以下のスタッフにより運営いたしました。

○山形大会運営事務局(山形大学地域教育文化学部文化創生コース内)[大会運営委員長]降旗孝/[大会運営委員]小林俊介/[大会運営事務局委員]土井敬真

[謝辞]学会総務局長の芳賀正之先生、学会総務局事務の高林未央様、山形大学非常勤講師の西野毅史先生、大会ホームページ作成および大会配信をご担当頂いた株式会社デジコンキューブ様には特段のご支援をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

(大会運営委員 小林俊介 2022.6.3)



図：会場風景；部門協議会の様子

お知らせ

会員情報（メールアドレス）の更新のお願い

経費削減ときめ細やかな会員サービスの実現のために、部門からの連絡の一部を可能な限り電子メールに移行させていただいております。会員の皆様には電子メールアドレスに変更等がございましたら、随時、e-nafシステムより会員登録情報の更新をお願い致します。

<更新方法>

- ①日本教育大学協会全国美術部門会員情報管理システム（e-naf）ログイン画面を開く
<https://e-naf.jp/ART-BUMON/member/login.php>
- ②「ログインID（会員番号）」と「パスワード」を入力（IDは封筒の宛名の右下に記載があります。今後も必要となりますので必ずご自身で控えておいてください。パスワードを紛失した場合は、ログイン画面より再発行が可能です。）
- ③会員登録情報をクリック
- ④画面一番下の「修正」をクリック
- ⑤修正したら、確認画面→登録へと進む。
- ⑥登録変更のご連絡（自動配信メール）が届いたら変更完了

部門会員の名簿について

日本教育大学協会全国美術部門では、2年ごとに会員名簿を作成し、会員の皆様にお送りしております。

令和5年度は、会員名簿を作成する年度となっております。各地区会を通して会員の皆様に名簿作成にご協力いただきますので、どうぞよろしくお願い致します。

なお、会員名簿は年度末に発行する予定です。

年会費の支払いに関するお願い

日本教育大学協会全国美術部門は、皆様の年会費により運営されています。年会費の支払いにご協力ください。

滞納されている方は、早めに納入してください。なお、払込取扱票の再発行はいたしかねます。未納額が不明な場合には、会員様ご自身でe-nafより会費納入状況をご確認いただけます（メールによるお問い合わせにも、従来通り対応致します）。また、領収書は払込の控えをもって代替させていただきますので、ご了承ください。

■振込先

口座番号：00940-9-173101

加入者名：日本教育大学協会全国美術部門

問合せ先について

日本教育大学協会全国美術部門では、平成26年度以降、業務の一部をアウトソーシング（中西印刷株式会社に業務委託）しております。つきましては、会員管理・会費に関するお問い合わせは、日本教育大学協会全国美術部門事務支局（中西印刷内）へ、その他については、総務局へお問い合わせください。

<会員管理・会費関連に関するお問い合わせ>

日本教育大学協会全国美術部門事務支局
（中西印刷株式会社内）

Tel:075-415-3661

e-mail:art-bumon@nacos.com

<総務局へのお問い合わせ>

総務局専用電子メールアドレス

e-mail:daibibumon@uaesj.com

【総務局広報担当】

村田 透（滋賀大学）
福井一真（愛媛大学）
松尾大介（上越教育大学）
吉川暢子（香川大学）
高林未央（総務局事務員）

